

南八ヶ岳火山群 最初期噴出物の層序の再検討

Revision of the stratigraphy of the earliest eruptive products in Southern Yatsugatake Volcanoes, central Japan.

荻野目 泰基 [1]; 西来 邦章 [2]

Yasumoto Oginome[1]; Kuniaki Nishiki[2]

[1] 信州大・院・地球生物圏科学; [2] 信州大・理・地質

[1] Geosphere and Biosphere Science, Shinshu Univ.; [2] Geology Sci., Shinshu Univ

八ヶ岳火山群は長野県東部に位置する第四紀火山で、南北約21kmの火山列からなっており中央部の夏沢峠を境に南・北八ヶ岳火山群に区分されている(河内, 1977)。河内(1977)は、八ヶ岳火山群を明瞭な浸食期を境に古八ヶ岳期と新八ヶ岳期に区分できるとした。しかし、西来ほか(2007)は、K-Ar年代測定、古地磁気方位の結果に基づいて八ヶ岳地域の火山活動期区分を新たに提案し、八ヶ岳火山群は約50万年以降に活動した火山であるとしたが、南八ヶ岳地域の詳細な火山活動については十分に明らかになっていない。南八ヶ岳地域における最初期の噴出物は、河内(1977)によってキレット安山岩と命名され、南八ヶ岳地域の火山体の中軸を構成しているとしたが、キレット安山岩の詳細な層序は明らかにされていない。このことから、キレット安山岩の詳細な層序区分を行うことは、南八ヶ岳地域の火山活動史を明らかにする上で重要である。そこで本研究では、南八ヶ岳中軸部の中岳からジョーゴ沢地域の地質調査を行い、当地域に分布するキレット安山岩の詳細な層序区分を検討した。

地質踏査の結果、本調査地域に分布するキレット安山岩は、細粒の両輝石安山岩で、風化・変質の著しい溶結火砕岩、アグルチネートを主体に構成されており、火口近傍の噴出物であることが明らかになった。河内(1977)が火道岩体であると指摘している中岳周辺では、溶結火砕岩、アグルチネートがほとんどを占めており、この付近に主要な噴出口があったことが示唆され、中岳から北方へ向かうにつれて溶岩が卓越する。一方、調査地域の北部に位置するジョーゴ沢周辺では火砕岩と溶岩が互層をなしており、アグルチネートも見られることからこの付近でも噴出口があったことが示唆される。これらのことから、調査地域では南北に連なる複数の火口が存在していたと考えられる。